

平成19年度 第3回 自動車アセスメント評価検討会 議事概要

1. 日 時 平成20年3月28日(金) 10:00～12:00
2. 場 所 自動車事故対策機構 6階大会議室
3. 出席者 自動車アセスメント評価検討会
近森委員(座長)、益子委員、大橋委員、和田委員、四倉委員、桜井委員、
岩越委員、水野委員、森山委員、吉川委員、山口委員、高橋委員、森澤委
員、宇治橋委員(後突安全技術検討 WG 座長)
事務局
国土交通省
和迩課長、江角室長、是則企画官
自動車事故対策機構
牛島理事、碓企画部長、志村マネージャー、
4. 議事概要 以下のとおり

- 事務局 定刻となりましたので第三回自動車アセスメント検討会を開催したいと思います。本日は委員の方々全員出席の予定となっております。また、後突安全技術検討ワーキングの座長を務めていただいております東京工業大学宇治橋先生にメインテーブルにお座りいただいております。では議事に入りたいと思います。ここからの議事の進行は近森座長にお願い致します。
- 座長 19年度の最後の評価検討会になると思います。宜しくお願ひしたいと思ひます。まず資料の確認をお願いします。
- 事務局 (資料の確認)
- 座長 よろしいですか。今日は非常に中身がたくさんありますが、特に議題1と2については色々活発な意見をご享受お願ひしたいと思ひます。それでは議題に従って進めていきます。まず、最初に一番目は19年度自動車アセスメント結果についてですが、(1)からご説明いただけますか。
- 事務局 (資料1-1、1-2の説明)
- 座長 どうもありがとうございました。というご説明ですが、中身の内容に関する問題と、もうひとつは書き方、表示の仕方の問題があります。何かご意見がありますか。
- 事務局 詳細版の方の記載方法については昨年のもを踏襲しております。
- 座長 簡易版の方が従来とスタイルが変わっておりますが。
- 委員 すみません、どんどん厚くなっていく気がしますが、従来通り紙で配る必要はないのではないか。こういうかたちで100ページ近くなりますよね。例えばDVDに

するとか。

事務局 はい、この紙での配布というには基本的に購入いただいているものでデータ自体はNASVAや国土交通省のホームページに掲載しています。

委員 買ってくれるようなものだから多少厚くなってもいいということですか。

事務局 今ご覧頂いた厚い方は有償で一部1,050円で希望される方にデータ集として販売しております。実際に一般の方に見ていただくのは薄い方になります。今資料としているものは冊子版になってない原稿ですので大分厚い感じですが、製本されれば例年とさほど変わらない厚さになると思います。

委員 何冊くらい売れていますか。

事務局 そんなに多くはありません。それと報道関係の方とかそういう方にアセスメントを分かっていただくために使ったりもしております。

事務局 基本的には全てこの厚い方の冊子の情報のデータの部分はNASVAのWebサイトで一般の方がご覧になれるようにしております。

委員 ネット上での表示は、この様式に完全に踏襲していますか。

事務局 はい。

委員 今時、冊子で印刷するよりもDVDの方が基本的に安いこともあるのではないかと。あと、例えばそれに関連する安全装置の情報とかその他もあります。そういうのも動画やアニメなども入れながら配るっていう手もあるのかなと思いました。それは予算のこともあると思いますが。

座長 この薄い方は、今までの1年から7年までのものが全て記載されているのですか。

事務局 こちらは今現在販売されている車について掲載しています。

座長 アセスメントを行った全部という訳ではないのですね。

事務局 過去のアセスメントを全部掲載しているのは厚い方です。

座長 薄い方は。

事務局 薄い方は今販売されているものを掲載しています。

座長 古いのに対して新しいのが出来ると古いのをやめて新しくなるのですか。

事務局 そうです。販売をやめているものは消えています。

座長 それでこの中で2007年度に行ったのが赤い字で、車名が書いてあるのですか。

事務局 それでは自動車のパンフレットのご説明をします。
(資料1 - 3の説明。)

座長 はい、どうもありがとうございました。今までの説明で何かご質問、ご意見ございますか。

委員 先進装備というか ESC とか被害軽減ブレーキの標準・オプションの表示が入ってきてますが、メディアワーキングで論議されているのかも知れないのですが標準とオプションの違いが何か説明みたいなものというのがあるような気がします。例えば、スカイラインですと ESC の場合には最下級グレード以外の他のグレードは全部標準で付いていますが、そういう場合はオプションというのか標準というのか多少混乱があるのかも知れないと思います。

事務局 こちらのパンフレットの方は元々試験した車がどうだったかを掲載しています。

委員 試験した車がということですね。

事務局 はい、そういうことです。

事務局 予防安全技術検討ワーキングを開催させていただいております。その中でアセスメントの対象車種についてオプションと標準装備の定義をさせていただきました。

委員 わかりました。それはどこかに注意書きがあるのでしょうか。各ページの左上に一言入れていただいた方がいいですね。

座長 それは検討していただくことにして、他に何かございますか。因みにこちらはどの位部数が出ていますか。

事務局 50から55万部を配布しています。無くなれば増刷することとしております。

委員 すみません、世界自動車アセスメントの中に JNCAP の説明はどこにありますか。

事務局 JNCAP の冊子なので記載はありません。

委員 「世界の」とあって皆誰でも日本は何て言うのだろうと思うのではないですか。これしてみると JNCAP はどこにも書いてない。日本との比較は欧州とかアメリカは書いてある。記載する必要はないのか。

事務局 一応 JNCAP という表紙に緑の字がありますが、きちっとロゴとして決めているものではないので、今後、何かいいものを作ろうと考えております。それが出来たらご意見を伺おうと思っています。

座長 あと何かございますか。

委員 無料冊子の方ですけど、一台一台ぱっと見綺麗に見易くなったのですが、かえって比較がわかりにくくなっている。目立たなくなった感じがします。

事務局 一応メディアワーキングの先生方にも今年はこれでいって見たらという意見をいただいております。今後、不評でしたら変えていこうと思います。一長一短はあると思います。

委員 これもページ数があまり多くならない方がいいですよ。出来るだけ薄い方がいいなと思います。

座長 いつ頃発行される予定ですか。

事務局 後でまたご説明いたしますが、4月21日のアセスメント結果発表会に合わせて発行いたします。

座長 では、そういう格好で進めさせていただきます。
次の議題2はチャイルドシートアセスメントの結果についてです。これは別々にやった方がいいのですか。まずは調査研究の方を行い、その後、2番3番をまとめて行ったらどうかと思います。まず、(1)の調査研究についてご説明をお願いします。

事務局 (資料2 - 1の説明。)

座長 ありがとうございます。以上でこれは腹部圧迫の測定についての結果報告ですけれど、ここまで何かご質問、ご意見ありますか。

委員 3ページの表の4.1と図の4.2というの是对応していますか。

事務局 はい。

委員 図の4.2の1.2のところも点がなく、そのところが表の4.1の1.2の1.99とか1.95の値が図の4.2でいうとベルト張力が1.1位のところの値のようにも見えるのですが、ここは間違っていないですか。少なくとも図の4.2には1.2のところの点がないですよ？

事務局 少しずれているように見えますね。

委員 ずれているようですがありますか。0.1から始まって0.1刻みできているけれど、1.2のところが最後ひとつないように見えます。

座長 表は0.2刻みだけれども図の方は0.1刻みになっていますね。

委員 表の方の値なのか図の方の値なのか、なんかシフトしているようにも見えるのだけど。

事務局 そうですね。閾値の数値1.30とか0.91っていうのは値で見えておりますのでは間違いないですけど、グラフの方は確認して、間違いであれば見直します。

委員 それから値の見方としてベルト端の張力に対して面圧計による腹部合計加重っていうのが1.5倍くらいになるのか。ベルト端の張力に対して腹部合計加重っていうのが0.2ぐらいのレベルだと、ほぼコンパラブル。1.0のレベルだと1.5ぐらいになる。力のつり合い考えると、両端をぎゅっと引っ張ると腹部のところに受ける加重は2倍くらいになるという概算で思っていたが、これくらい違うっていうのは妥当なのか。大きく変形するから、こうなってしまうのかも知れないですが、そういう妥当性について検討されたのですか。

事務局 解析はしておりません。測定結果はもともとの腹部加重の計測をした時と同じ方法で行っていて、それと考え方を変えずに同じようにダミーだけ変えてやったという現状です。

委員 少しそういったところも見ていただいた方がデータの信頼性も上がると思います。

座長 他に何かございますか。
ではこのような経緯で改良した測定方法で今年は新しくチャイルドシートのアセスメントをやりましたが、結果と関連すると思いますけど、2番3番を一まとめにして続けて説明をお願いします。

事務局 (資料2 - 2から2 - 6の説明。)

座長 今回の破損の問題だけ先にご意見を伺いたいと思います。資料2 - 2の中に黄色が書いてあるチャイルドシートが3つございます。左から3番目のものがベルトガイドが破損したってということで じゃなくて に評価、軽微な破損、重大じゃないということでこれが になった。それから7番目のところの下の方の列でこれは黄色がついたサポートレグが変形したと、これも軽微なものだろうということで というような評価を。右から2番目のものがベルトガイドが亀裂したということで になっています。ということでいずれも若干の損傷、変形はあるんですけども重大なものじゃないだろうということで という評価になっています。これが妥当かどうかということですが皆さんのご意見をお伺いしたいと思います。

事務局 宜しければここで一点ご提案したいのですが、今の資料2 - 5の6ページですが最後に青字で書いている部分ですが、従来からこのような取り扱いがあったかと思いますが再確認させてください。評価法の中で予め公表されている衝撃吸収機構の場合はその機構が作動した場合は変形があっても破損があったと評価せず 扱いでというルールがありますが、今回のように特に取り扱い説明書にも記載がなくて事前に公表もされてないというような場合についてです。後から今回のように意見書等が出て、これは衝撃吸収機構だと、そういう後だしの衝撃吸収機構の場合はもう認めないと、次年度からは製品に衝撃吸収機構がある場合は予め試験前に申告しておいていただいて、その申告と同じ結果が試験で確認されてそれをこの検討会で審議して承認された場合のみ衝撃吸収機構が作動したという取り扱いにしたいと考えています。後だしの意見書等では認めないというルールとしたいのですが、それで宜しいでしょうか。

座長 従来からもありましたが、設計的に変形することによって衝撃吸収するというものであれば、事前にそのどこかに記述があるか説明があるはずなんで、その場合は変形しても変形したという評価にしてなかったと思います。それを予め事前に説明があったものだけに認めよう。次年度からは後だしはダメ、ということにしたいということですが、こちらについても何かご意見ございますか。

委員 事務局の提案でいいと思いますが、要するに設計にその衝撃吸収を織り込むということは、どちらかというところかなり安全側で設計をするはずですから、こういうテストを何回やっても同じクラックが出ると思います。ところが後だしのものはそうではなくて本当に破壊してしまう危険性も別に証明されてない訳です。今日提案されるようなことをきちっと事前に確認すべきですね。私は賛成です。

座長 ともありがとうございました。

委員 一つ気になるのは、後だしはダメですよということが事前にルールの中に決められているかどうか、試験をやった後でルールを変えるっていうのはいけないと思う。確かにいいルールですが、それを最初から公表してるかどうか気になります。

座長 これはどのような格好で進めていく予定ですか。

事務局 試験方法や評価方法の中に書くか書かないかは未定ですが、例年通り次年度も試験の前に各メーカーの方に集まっていたいて説明会というのを開催します。その時にこのような衝撃吸収の作動が予想される場合は事前に衝撃吸収機構の説明書等提出していただいて、試験でその内容と同様な事象が起こった場合にはこちらの検討会で審議いただいて、これはその事象がちゃんと起こったのだと、認められた場合にだけに 扱いにしたいと考えています。

座長 これは来年度から実際適用するということになりますね。

事務局 そうです。あと、曲がりそうだからもうとりあえず全部出しとけよ、そういうことも考えられますが、そうすると提出されれば何でもいい訳ではなくて、必ずこの検討会でご審議いただいて認められた場合だけというイメージです。

座長 ということで来年度からこのような取り扱い方にさせていただきたいと思いません。

委員 その場合も試験結果の写真なりを何でも出しちゃえというのが一番怖い。レッグサポートについても全部衝撃吸収って言ってしまえば逃げになってしまうと思うので、そのどこからが×なのかということも明確にできる方がいい。試験結果の写真なりデータを出した方がいいのではないかと思います。

座長 その辺を考慮してお願いします。宜しいでしょうか。

事務局 それからもっと大きな問題があると思っていますが、2 - 2の表の下に赤く書いてあるところがありまして、この辺の問題点を説明してください。

座長 (資料2 - 7から2 - 10の説明。)

座長 ともありがとうございました。今のダミーの構造というのは資料2 - 1の8ページに腹部の断面図がでており、これ見るとよくわかると思います。第一肋骨と第三肋骨にタッチセンサーがあり、そこまで変位すると信号がでて計測することができる。従来のは今の下の第三肋骨のタッチセンサーのもう少し下のところに変位計が付いていたんですが、今回それを取って、取った部分に内臓と同等と思われる柔らかいものを詰めたという格好になっています。これで腹部の加重の不具合の疑問もありますけども、もう一つは今まで評価していなかったタッチセンサーがタッチした訳ですけど、それをどう扱うかという問題がある訳ですね。それで、ひとつの折衷案の格好で案を作られていますが、この辺に関しては皆様のご意見を色々伺いました方がいいと思いますが、まず医学的に見

- てどうでしょうか。
- 委員 これ拝見しますと、第三肋骨のタッチセンサーの場所は胸骨になる訳ですが、それが触れてしまうっていうことは、もうこの間にあるのは心臓ですから、心臓が破れても不思議じゃないと思いますが、では本当にこのようにチャイルドシートの事故で心臓の破裂している事故があるかという、これが私が把握している限りではまったく起きたことないです。それは事故があっってお子さんが亡くなっているのだけれどもその解剖をしてないが為にわからないのか、或いはまた違うメカニズムで心臓はお子さんの場合は丈夫で持ちこたえたとか、それはわからないです。少なくとも私どもで扱った子供の重症の外傷患者やお亡くなりになった場合で胸骨と脊柱が圧迫されて心臓が破れたというのは今のところ経験はないです。
- 座長 これは個人的にいいのかなと思っているんですが、先程の事務局からの説明の2ページの下コメントのところですけども表の下コメントのところで「ダミー胸部や腹部に計測範囲を超える大きな変形を生じさせて、腹部への圧力を正確に測定できないこと」これは腹部の圧力が正確に計測できないからこうしたという感じで今の大きな問題点が隠れてしまっていないか。もう少しそれを表に出した評価の方がいいかと思っていますが、腹部の計測は今までの硬いものを取ってしまったからかなり正確に書かれているのではないかと思います、その辺についてもいかがでしょうか。
- 委員 難しいところですね。評価のルールを変える訳ですね。
- 座長 そうですね。そうなりますね。
- 委員 状況を見て総合的に判断しても言い難い。
- 座長 他に何かありますか。
- 委員 医学的な内臓等の外からの変形であるとか、内臓の傷害関係がある程度わかるといいのですが、この辺の知見があるといいのですが。
- 委員 肋骨にヒビが入るぐらいならいいんですが、折れた場合ですと先生がおっしゃったように、心臓を傷めちゃう、突き刺さることもあるんですね。そういった面でいうと例えばこのくらいの強度を受けると肋骨が折れますよというようなデータがあればいいのですが。
- 委員 年齢によっても違いますし、子供の場合にはむしろ肋骨はもの凄く弾力があって殆ど折れないのですね。肋骨が折れないで心臓が破れたり、大動脈が破れたり、肺が破れたり子供の特徴なんですね。逆にお年寄りには軽い外力ですぐ折れてしまう。それと骨粗しょう症もあります。
- 委員 ひとつ宜しいですか。この胸部の問題は今後研究して欲しい。というのは、この製品のインパクトシールドは凄く位置が高いのです。実際私も子供を何人か座らせていますが、ダミーはお尻の厚みもあって座高が高いのです。実際の子供

はもっと座高が低くて実際座らせるとどうなるかという身長90センチ前後の子だと鎖骨のあたりで受け止めることになってしまうのですね。その時のこの数値の恐さってというのがどういうふうにでるのか。シールドの高さがどんどん上がることによって危険性はかなり増すのではないかという想像はできる。腹部の数値だけを逃がすためにシールドを上にもっていかせてしまうっていう危険性があると思う。ここは研究を必要とするのかなという部分。この2製品に関しては、評価を行わないということはありだと思いますが、もう2つの製品に関しては推奨せずでもいいのでは。すべてインパクトシールドだから評価しないのではなくて、出来るものに関してはしていく。こちらの2製品に関しては胸部の数値というものが今後研究が必要とされる為に評価しないっていう方がわかり易い。

座長 他にどうですか。

委員 難しい問題で、今おっしゃったことにつきますと思いますが、ただこの結果がどれだけリアルワールドで再現性があるのか。このテストで実証できているのかが少し気にはなりますね。ただそうは言ってもインパクトシールドの中で非常に上の胸部のところ真っ赤なのがありましたけどそれまで認めちゃっていいのかってところですね。この部分は評価する範囲ではないですがデータとしては出ている訳ですよ。それでもいいかというと、それは言えないと思う。

事務局 確認したいのは、腹部が赤くなっているものは割りと面的に受けたのに対して胸部が赤くなっているものは線的に受けている、それとどちらが推奨せずなのかといった時に優位さがわからないのであれば、同じに扱ってはどうかというのが事務局の提案です。そこに差があるということであれば差をつけてみたいと考えます。

委員 大人の場合だと確か参考になる数字があったはずですが、今回の数字がそれよりも超えているようであれば今年からでも、でも指針の後だしということであるというならば、全部そういうものは保留してしまうのがいい。あと感覚的には確かにインパクトシールドっていうのはおっしゃられた通りミスユースが少なく、低速域というか中速域までは大変いいものだと思います。55キロのフルラップっていうもの凄い厳しい条件ですので弱点がでてしまうのでしょうか。それを本当にここで評価するのがいいのか、事務局が説明したように世の中の評価にどこまで合っているかというのは確かに判断できないかもしれない。

座長 ミスユースの件は使用性評価のところまででくれば一番いいと思いますけれども、その辺は結構差が出ていますか。

事務局 インパクトタイプの方は取り付け性という項目がありますが、この製品はオール5の最高の評価になっています。またこちらの製品の場合でも4又は5であって取り付けは非常にし易い。ミスも殆ど発生しないだろうという感覚はございま

- す。
- 座長 他に何かご意見ございますか。
腹部荷重計測については、最初に調査研究の説明があったように改善を加えてきて向上していると思います。その方法が折角ここまで向上したのにそれでもまだ疑問の投げかけを我々からするのはあまり得策じゃないのかなと思います。腹部荷重は腹部荷重の評価基準に従ってちゃんと評価するというのが一つと、もう一つ新しい知見として胸が非常に大きく変位するという問題が新たに出てきた訳ですね。それについてはまだ実際の事事例、或いは医学的な見地からの話と詰めないといけないところがありますからそれについては今の胸部の変位は大きいけども明確にその判定する医学的、力学的なその根拠がはっきりしないから評価せずということにするということにするのが一番いいのかと思います。2 - 2の表の5番目と6番目は腹部加重から見ても推奨せずとなり、後の方の二つは評価せずという最終的な評価になると思いますけども。そういう取り扱いで宜しいでしょうか。
- 委員 最初の2つのデータですが、腹部荷重値は確かに計測されていますが、傷害の閾値がベルトとは違うなど1.3kNではないのではないかと。
- 座長 それはインパクトシールドで試験を行っています。今ここは全体の加重を積分して全体としてみているのであって、ベルトだろうと極端に紐みたいなものなら別ですけど変わらないと思います。
- 委員 傷害の閾値はもともとベルト加重で出していてそれによる傷害を見ているのでインパクトシールドの傷害とは対応しないのではないかと考えられます。傷害のモードが腹部に掛かった時にベルトとシールドでは違うのではないかと。やはり最初の2つも私は評価せずの方がいいと思います。
- 座長 となるとインパクトシールドの腹部加重は測れない、今までその為に来てきた訳ですが。
- 委員 測れるのだけれど、閾値が違うのではないかとということです。
- 事務局 先程の調査研究の時にこちらから説明したように、インパクトシールドタイプは胸部変位計を外した場合に加重が小さくなるべきところに大きくなったのはどうしてというご質問のときに、解析した結果、より多くの影響がでてしまい荷重が大きくなったというのが今年の結果です。理念上は何かにつづかって集中荷重が起きていたものを外すと小さくなるのですが、余りの変形の大きいインパクトシールドタイプの場合必ずしも正しく測れないことがあるというのが調査研究でも解析結果として言及している訳です。それでも大体出来るだろうということで今年度のチャイルドシートアセスメント試験をさせていただいたのですけれどもその結果を見てもやはりその部分の奥の影響がでてきているということからしますとその計測値を公表することについては奥の部分の影響が出た値だということ

がひとつです。それから委員がおっしゃられたとおり仮に正しく測れたとしても傷害のモードとか考えますとサブマリンの際の腹部ベルト荷重の内蔵傷害からもってきたものと面的に受けるインパクトシールドでは適用に若干レベルが違うのではないかという二点の懸念です。

座長 そこは如何でしょうか。

委員 今の傷害のメカニズムということではおっしゃるとおり細かいところは違ってくると思います。現状では段階的に調査研究をやってきたところですので今の部分を急に変えるっていうのは難しいのでは。

座長 今の件で腹部荷重が上手く測れてないのではないかと、閾値が違うのではないかとということですがその辺はいかがでしょうか。今言われたのは同じ加重でもベルトの場合は集中して掛かるけど、インパクトシールドは分散してかかるから全体の加重は一緒でも被害を受ける度合いが変わるのではないかとということだと思いますが。例えば先程のデータの資料2 - 3の5ページ、或いはこの辺見ていただくとこれを分散っていうのかよくわかりませんけれど、これだけ分布が集まっているとちょっと危険性が大きいかと思います。これは閾値の問題まで出てくると腹部計測のまた最初に戻ってしまいます。

事務局 事務局としてはハーネスタイプ等については従来どおり面圧計測の方法を使って、インパクトシールドについてはそういう知見がはっきりするまでの期間をいただきたいということで提案させていただいております。

座長 今年度はこのまま進めて来年度くらいから新しくしてやろうということですか？

事務局 来年度とコミットするのは知見のない段階ではなかなか言えませんが、当然そういうことがわかってくればきちっと測っていきたいということでございます。

座長 ということは極端に言うとインパクトシールドについては評価ペンディングだということになりますね。だけでも荷重計測値は疑義があるとしても今の胸の変位の問題というのもその間ずっと流れていく訳ですね。それでいいのかという気もしますが。

事務局 その警鐘は出していくっていう内容で今回提案しています。逆に従来は胸の変位について無罪放免だったことを思えば警鐘をならしていくという大きな前進と考えています。

座長 いかがでしょうか。その辺は。

委員 だけでもこういう話っていうのは最低限の安全を保障することではなくて、従来からのより安全サイドでものを考えるっていうのが大事だと思います。ですから私は事務局のいう方が理にかなっていると思います。法律っていうのは最低限の安全でしかないですが、私はこういうチャイルドシートとかそういったものについてはより安全サイドで評価するということが大事ではないかという感じがします。

座長 より安全サイドということは具体的に言いますと、具体的には。
委員 不明確だけれどももしかしたら、こういうことが起きるかもしれないということ。
座長 それを取り上げて話すべきではないかということですね。
委員 はい。
委員 リアルワールドの実際のデータを持っていないので難しいですが、おっしゃるようにより安全な方という視点で考えますと、実際これは肋骨じゃなくて胸骨なのです。胸骨が背骨に刺さっているのであれば、心臓は間違いなく損傷するのです。だからこれはくつつかないものと比べたら、くつついている方が悪いというのは明らかだと思う。それは言ってもいいと思います。くつつくことがくつつかないことと比べてどれくらい悪いかって言われると難しいですけど。

委員 そうですね。難しいですけど。
座長 要するに胸が大きく変形するという事象は出しておかなければいけない。
委員 側方からは結構強いです。実際にそんなに肺や心臓損傷はないですけど前後方向ってというのは心臓が潰されるので、それは傷害を受ける。そういう意味では底付きするのは上手くないとの印象を持っています。

委員 念の為ですが、ダミーの構造は必ずしも人間と一緒にじゃないものですからこの肋骨の底付きってというのは実際の人間の背骨に触ったということでは必ずしもないというように理解しておかなければならないと思います。

座長 今回の胸の変位の話は皆さんその問題点として定義するというのがご意見だと思います。今の話では私は腹部荷重のこの数値をそのまま信用して評価していいかと思っているのですが、事務局の案は腹部荷重或いは、閾値も違うかもしれないからそれも不明確にして総合評価をしない方がいいということですが、その腹部荷重もどう取り扱うかがもう一つある訳です。それについては皆さんどんなご意見でしょうか。

委員 今後のそういう問題を潰していくプログラムというか時間のイメージはないのですか。いつまでもどういうふうに進んでいくのがわからない状況ということでは、だから1年じゃ無理だとしたら2年以内とかで何か具体的にどういうステップで潰していくのか。いずれにしても不明確なことがあるのは事実ですが、今日よくわかっている訳だから短期間に、お金の問題とか色々ありますから出来る範囲内です。

座長 年度内にですか。
委員 それを明記した上でその間は暫定的に事務局のというような案でいくということにしとかなないとせっかく今までやってきたものを止める訳にはいかないから。

委員 いずれにしてもインパクトシールドタイプはちょっと別物にするっていう筋道はもうわかっている。ただその閾値をどうするか、どこをみるかはわからないっていうところはあるけど。今のように移行しようと思っているので今回は判定は出

- 来ないということなのかなということですよ。値を公表することもそういう状況だと少し考えないといけない。
- 委員 インパクトシールドタイプっていうのは安全面においてはいいタイプであると理解していいのでしょうか。
- 事務局 誤解のないように、先程申し上げましたけど、ミスユースというものも含めたりアルワールドの事故で、特にAIS2レベル以上では、ハーネスタイプの方がむしろ傷害を沢山起こしているというようなことがあるので、そこまで考えれば排除すべきじゃないということをこの論文を書かれたドイツ人の先生は強く主張されていました。
- 委員 だからいいかどうかは別にして有力なひとつのタイプであるというぐらいで理解すればそれはやはり定着させるためには、今の問題点というのはクリアにしていって本当にいいものをいつまでも宙ぶらりんのままの状態だとまずいですよね。そういうプログラム作っていただいて、次回にでも具体的にどうやっていくのかを皆さんにアナウンスメントして、それでその間は、これでやらせてくれということでないといけないと思います。
- 委員 ユーザーの立場で結果表を見たときに、この4製品がノージャッジっていう評価がでた時に数値が出ている場合、数値を見た際に、ユーザーとして1.3kN以上は×なのだけどそれ以上の数値が出ているのに、評価をしないっていうのは下の注意書きを読んでもたぶん理解出来ないと思う。
- 事務局 数値も出さないような感じのイメージをこの2ページ目に書いてあると思うのですが。
- 委員 数値が出ないというのも誤解を生じると思うので、これは個人的な案ですが、全体評価を出さずにデータがわかるところだけ載せるのであればページも全く別にしたらどうか。評価に関しては今後の調査研究でわかり次第評価しますっていう一文を載せればユーザーも混乱はしないと思う。こういう製品もあるのか。使用性評価もこうなんだ。でもまだ衝突安全は見えてないのかっていう部分でわかると思う。今までのように混ぜて、幼児用、乳児用ってバラバラだとよくわからない。評価しないのであれば全く別ページで今後の研究課題製品じゃないけど、そういういい言葉を考えて本当にペンディングすればいいと思う。
- 座長 というのはいかがでしょう。
- 事務局 おっしゃられた整理を行ってカテゴリーの違うものだっていうことは、やりたいと思いますが、パンフレットの原稿をみていただくと大変わかり易く出来上がっていると思いますので。
- 座長 そういう格好で暫定的に今は評価出来ないという注釈がわかるような格好にすると、それともうひとつインパクトシールドに対してのやり方というか計画を作っていかなければいけないと思います。

事務局 その辺も有識者の方々のご意見を伺いながら対応ができることになれば導入していくということです。

委員 データ的にはこの面圧計の図は出すのですか？

事務局 そこは確認したかったのですが、もし誤解を招くなら外しといた方が。これまでインパクトシールドと正しく書かれなかったものの例が、パンフレットの例でいうと20ページの左上のところにあるんですが、この時も実際には計測しておりますが正しく計測出来なかったから載せておりません。それとの横並びとの意味では載せない方が誤解がないと思います。

委員 具体的にこれ見てしまうと。出せば説明が難しいっていうのは確かですね。今の議論聞いていても難しいですから。ユーザーには殆どわからないでしょう。

座長 では図も出さないということにするのですか。

委員 でも結果が残るのは違和感がある。

事務局 もちろん注釈は書きます。別にそんなに違和感はないと思います。2005年のものと同傾向ですし、それに胸部変位の記述とかがさらに加わります。

座長 胸が底付きするという点を書かれたけれども計測というか評価の仕方がインパクトシールドは違うかもしれない。評価について知見が足りないのでも最新の評価はできないということですね。だから数値を出さない。そういうことで宜しいですか。

事務局 引き続きパンフレットのご説明していただいていいですか。

事務局 (資料2 - 11の説明。)

座長 どうもありがとうございました。何かありましたらお聞きしますけれど、宜しかったら

次3番が各ワーキンググループの審議状況ですけど先に5番の20年度のアセスメントについて特に対象車種の選定方法とスケジュールを説明していただけますか。

事務局 (資料5 - 2の説明。)

座長 どうもありがとうございました。特にメーカーさんの方から委託試験の締め切りがはっきりしておりますので資料5 - 3の一番下の行を見ていただきたいと思いますのですがこの点ご留意をお願いします。5番が全部終わりましたけど、元に戻って3番の4つの項目を簡単に説明をお願いしますか。

事務局 (資料3の説明。)

座長 ~~ありがとうございます。あとその中説明の打ち次のも特に説明指れませんかの見~~
~~そ中ただげれば初が検討の進めれば、時間があがせんので後ほど目を通して~~
~~資料11での意見がありましたら次回の検討会をお願いします。4番のアセスメ~~
~~どらの結果発表会では口は直し、お願いです。て終了しましたけれど時間が過~~
~~ぎ資料もいました。2金説明について皆さん何かございますか。事務局の方は何か~~

事務局

座長

事務局

座長

事務局

ありますか。それでは第三回自動車アセスメント評価検討会をこれで終了させていただきます。長時間にわたりありがとうございました。